

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第183号

[2022年11月30日発]

令和4年度公開講座・公開講演会

I. 公開講座 デイケアにおけるグループワークの効果

精神保健福祉士 五十嵐 美紀

公開講座にて、「デイケアにおけるグループワークの効果」をテーマにお話をさせていただきました。烏山病院デイケアの特徴としては、大規模(平均60名の参加)であること、ピアスタッフが活躍していること、発達障害専門プログラム(図)を有していること等があります。

プログラム	特徴
ASD ショートケア	就労者 隔週土曜日に3時間のプログラムを実施。職場での悩みも共有。
	未就労者① 平日に週1回3時間のプログラムを実施。言語的表出が多い方、就労等が目標
ASD デイケア	未就労者② 知的に遅れあり、大集団を好まない方、コミュニケーション・生活支援・居場所
ADHD ショートケア	就労者 隔週土曜日に3時間のプログラムを実施。
	未就労者 平日に週1回3時間のプログラムを実施
学生グループ	発達障害特性をもった大学生、大学院生、専門学生を対象に実施。学生相談室と連携
デイケア	「生活支援コース」「就労準備コース」の中から選択。他疾患と合同。個別支援も行い、専門プログラムを終了した後に移行し、学んだスキルを実践する。
OB会・サークル活動	専門プログラム卒業生のグループ。凝集性の高まったグループ内の関係性を維持するために実施。
その他	就労準備プログラム、初心者調理プログラム ひきこもりグループ、ジェンダーグループ



左図 発達障害専門プログラム

さて、今回のテーマである「グループワークの効果」ですが、デイケアでは日々様々なやりとりがプログラムや活動の中で生じます。そのグループのやりとり(専門用語で集団力動といいます)は薬物療法や医師・スタッフからの助言では得られない効果があります。

例えば、ASDグループの「ピアサポート」では、お互いに困っていることを話し対処法を話し合うのですが、最後の感想では、「話すことで整理出来た」「困っているのは自分だけではないと思い、安心した」「自分の経験が人の役に立てて嬉しい」等の意見が聞かれます。自分だけだと思っていた困りごとを受け入れる・受け入れられる体験は大きな効果があるようです。

安心できる場所で得た知識やスキルを、実践し生かすことによって、行動だけではなく認識の変化にも影響を与えます。デイケアがよりそのような場所になれるよう、尽力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

II. 公開講座について

昭和大学医学部精神医学講座 助教 中村 善文

今回は烏山病院のデイケアについての紹介、デイケアプログラムの内、私がよく参加をしていた **SST** と就労準備プログラムについての話をしました。デイケアの紹介の際に私がデイケアに関わるようになった経過を説明し、デイケアでの医師の仕事について、当院デイケアのプログラムの概略を説明しました。**SST** についての説明では **SST** の流れについての説明の他に、より理解を深めるため私が利用者役としてデイケアスタッフと撮影をした動画を流し、わかりやすく紹介しました。また、**SST** の利用者で発達障害の利用者とその他の疾患の利用者の傾向、**SST** のポイント、自分が **SST** に参加したことで気が付いたり学んだりした事、診療の場でどのように生かしているかを話しました。



就労準備プログラムについては就労準備ピラミットの対人機能を中心に行なっている事や就労に関する社会資源、求人票の見方、履歴書・職務経歴書作成、面接練習、合理的配慮、自己 PR、就労支援機関との合同プログラム等をおこなっていることを紹介しました。また、障害者の雇用の際に便利な就労パスポートの説明をしました。

まとめとして、烏山病院のデイケアは様々なプログラムを行なっている事、プログラムの見学は随時行なっている事等を説明しました。



年末年始休診のお知らせ

2022年12月29日(木)から2023年1月3日(火)は年末年始のため、休診となります。
あらかじめご了承ください。

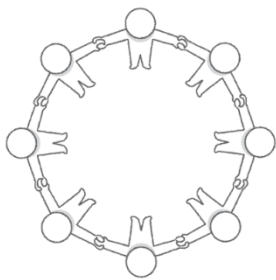


第 39 回日本家族療法学会大会

I 札幌・淡路島の学会へ行って参りました！

看護師 平井 尚子

9月1・2日に日本看護学会学術集会：札幌コンベンションセンターへ、そして、9月16・17・18日に日本家族療法学会：淡路島 淡路夢舞台国際会議場へ行って参りました。



ここ2年間の学会といえば、新型コロナウイルス感染の影響を受けてオンライン学会という、ちょっぴり味気なく寂しいものでありました。3年ぶりに現地へ赴く学会は、知人や恩師との再会の場であり、新たな出会いの場でもある、自分と共に励まし合ってきたメンバーにとって、最高のご褒美であることを再認識するものになりました。

今回の発表テーマは、『精神科スーパー救急病棟における疾患特性に着目した転倒転落リスクの検討』口演と、本稿にあります浦口美穂さんと取り組んだ、『なぜ自傷は消失したのか』です。どちらも、A4病棟医療スタッフ全員で、試行錯誤しながら患者と向き合い、支援した結果であり、それをここ、烏山病院の枠を超えて全国に発信できたことは精神看護のあり方を思考するうえで有用だったと思います。

浦口さんと大野晋平さんとの楽しかった旅の思い出は、時に孤独になりがちな研究活動の助け舟になることは間違いなさそうです。

II. 第 39 回日本家族療法学会大会に参加して

看護師 浦口 美穂

2022年9月16日～9月18日、淡路島で第39回日本家族療法学会大会に行って参りました。テーマは「家族への信頼、会話への信頼—希望を育むコミュニケーションに向けて」。共同研究者の平井尚子さんが会場で見守る中、私は「なぜ自傷行為は消失したのか」という演題で口演発表をしました。質疑応答の時間に、「何を目標にしたのか」「自傷をした時どのような声かけをしたのか」と2つの質問をして下さった方がおり、それぞれ「自傷をなくすのはハードルが高いため、SOSをだしてもらうことを目標にした」「自傷後の報告もよくみられたため、惜しい、自傷の前にSOSをだしましょうねと声をかけた」と回答しました。発表終了後、質問をして下さった方が同業者と思いきや声をかけたところ、「当事者です」と言われ私は驚きました。その方はご家族と共に別のシンポジウムで、当事者、そして当事者の家族としてどのように回復されたのかを笑い涙を交えて語っておられました。当事者の方やご家族が互いにどのような思いを抱いていたのか、また、当事者の方が家族や支援者の言葉をどのように受け止めているのか、その一端を知ることができ、大会のサブテーマ「希望を育むコミュニケーション」を学ぶよい機会になりました。



デイケア活動 昼プロについて

Mさん

デイケアで8月から昼プロ(お昼のプログラム)が復活しました。デイケアではお昼休みが長くどう過ごしていいか暇して困っている人もいたので、待望の昼プロ復活でした。今日は火曜日の昼プロの紹介をします。昼プロでは、遊び会、アート会、学び会を順番に行い、皆でやりたいことを話し合っていてやっていきます。プログラムの最初には、近況報告やテーマトークをします。「目玉焼きの食べ方」などそれぞれの好みやこだわりも分かって面白いです。遊び会では、サイコロトークや絵しりとり神経衰弱ゲームをやりました。絵しりとり用のカードをみんなで自作して楽しみました。アート会では、雑誌などを切り抜いて張り合わせるコラージュや自作塗り絵をしました。10月にはハロウィンのお面を作ります。学び会では、社会資源のことを学びました。お昼休みの時間を、遊んだりアートしたり学んだりして過ごせるので、暇から抜け出せて良かったです。



↑絵しりとり用のカードの一例

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時
土曜日 8時30分～13時
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

「10月」	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,824(8,225)	6,047(5,865)
◇一日平均患者数	284.6(274.2)	2441.9(244.4)
◆診療実日数	31(30)	25(24)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。
こちら当院のホームページのQRコードとなります。
ぜひご覧ください。



【編集後記】

枯葉も落ち着くし、いよいよ冬の到来となりました。皆様はどのようにお過ごしでしょうか？新型コロナと共存し令和4年もあと少しの状況の中、「新型コロナ第8波」「インフルエンザ同時流行」と感染症の情報がメディアで取り上げられ「嫌だなあ」「最悪」「もう終わった」と悲観的に捉えてしまうのも仕方ありません。

こんなネガティブな情報が行き交う社会だからこそ自分にいい言葉をかけてみませんか？紙を出して、こう書いてみましょう。そして、口に出して読んでみましょう。「わたしはできない」次に、こう書いて、口に出して読んでみましょう。「わたしは絶対にできる」ただ、書いて読んでいるだけなのに、前者は絶望的に感じ、後者の場合は希望を感じるはず。言葉はこれほどの力を持っています。

日頃、何気なく使っている言葉を少しポジティブに変化することできっと心が豊かになると思います。これから、寒さが益々厳しくなりますが身体も心もポジティブに温めて令和5年が到来することを楽しみましょう。

(広報委員 大迫)

